

労働と人間 - 手をつかい、手をつなぐ

2010.10.21

岡山県労働者学習協会 長久啓太

ブログ「勉客商売」 <http://benkaku.typepad.jp/blog/>

はじめに

一。労働とはそもそも

- 1。「労働」が、人間らしさを育てた人が、道具を使い、自然に働きかけ、環境と整えたり変えたりする。



それが、「労働」。

- * 人間は、労働なしには、生きていけません。私たちの身のまわりにあるものも、すべて労働によって得られています。
- * だから、「労働」というものを、深く理解することが、人間を理解することにつながります。

労働の起源は、人類の起源と同じでありまして・・・

- * ヒトは、猿から分かれて、2本足で立つように。
- * 「自由になった前足」が、「手」となります。
- * 人間の手は、“つかむ” “なげる” “ぶつける” “ひっぱる” “むしる” など、多面的に活用された。人間の手は、とても複雑な動きが可能で、繊細にできています。
- * そして、決定的なのは、道具の使用を行うことが可能になったということ。

道具の使用

- * 自然とのきびしい“素手でのたたかい”の中で、腕より長いものを、にぎりこぶしよりも硬いものを、つめよりもするどい武器を自然のなかに探し求め、腕のかわりに木の枝、にぎりこぶしのかわりに石のかけらを手にするようになりました。自分の体の延長として。
- * 道具の特徴は、だんだん改良することができること。子孫に伝えられ、1代、また1代と、道具に改良が加えられ、種類もしだいに多くなっていきました。道具の改良は、人間の自然に対する力をより大きくしていきます。
- * 手によって何度も道具をつくり、使っているうちに、手はだんだんと器用さを身につけていきました。道具の製作・使用という労働が、手を精巧なものにしていたのです。
- * また脊椎動物は「顔」が進行方向の最先端に位置します。そこに、目、鼻、耳、舌、ヒゲなどの重要な感覚器官（外界の探索機能）がある。人間は2足歩行の結果、外部の探索行動における「手」の役割が大きくなりました。
- * 「道具の使用」「外部探索」の結果、手の神経が発達し、それが脳の発達をうながすという関係になります。その脳の発達で、複雑な指令を手を送るようになります。手の発達と脳の発達は、このように一体にしてすすんでいきました。

* テレビを組み立て、パソコンのキーをたたき、字をさらさらと書き、ピアノをひきこなす手、そんな手を人類が最初からもっていたわけではありません。今日の人間の手は、何百万年という人間の労働の成果が作りだしたのです。

芸術や文化も労働から生まれた

* 道具をつくる過程で、その苦勞のなかで、自分のつくる道具 = 作品のでき具合に心が動くようになりました。さまざまな道具の製作をくり返すなかで、「もの」の「かたち」がうまくできあがったとき、心がはずみ「ああ、美しいな」という美的感情のようなものが芽生えました。こうした心の動きを、「理性」と区別して「感性」や「感情」といいます。

* また、ときには労働の必要から、「図」や「絵」を描き、意思統一をしました。そのうち、その「図」がやがて見事な「作品」となり、美的感情もますます磨かれ、同時にその「図」を描く仕事に専念する人間、つまり「芸術家」を育てました。



* やがて、舞踊や音楽、彫刻や絵画、さまざまなジャンルの芸術が分化発展し、一方でそれを鑑賞し、そこから生きる力を得る「鑑賞者」も育っていきました。

* 考える力や科学と、感性・感情・芸術文化を一体として「人間の生きる力」として豊かに発展させてきたのが、人間の歴史であり、労働の歴史でもあった。

労働は、本来人間にとって、「喜び」なはず。

* ものを生み出す、創造する、形にする、むすびつける、人の役に立つ

* 「労働」をつうじての仲間とのつながりは、独特な連帯感を生み出す



2. 労働をキーワードに、社会的な視野から、ものごとをみる

なぜ蛇口をひねると「水」が出る？

* 今朝起きた瞬間から、「どれだけの人のお世話になっているか」を考えてみよう

無数の人びとの労働によって支えられて

* 『いっぽんの鉛筆のむこうに』（谷川俊太郎文ほか、福音館書店）

「自分たちの地球が宇宙の中心だという考えにかじりついていて、人類には宇宙の本当のことがわからなかったと同様に、自分ばかりを中心にして、物事を判断してゆくと、世の中の本当のことも、ついに知ることが出来ないでしまう。大きな真理は、そういう人の眼には、決してうつらないのだ」

（吉野源三郎『君たちはどう生きるか』岩波文庫）

3. 社会を支える「働く人びと」 - その状況はどうか？

「私」の生活を支えている人びとのことを想像する

* 生活はどうか？ 働き方はどうか？ その人の労働は尊ばれているか？

「生み出してくれる人がなかったら、それを味わったり、楽しんだりして消費することは出来やしない。生み出す働きこそ、人間を人間らしくしてくれるのだ。これは、何も食物とか衣服とかいう品物ばかりのことではない。学問の世界だって、芸術の世界だって、生み出してゆく人は、それを受取る人々より、はるかに肝心な人なんだ」(前掲書)

「労力一つをたよりに生きている人たちにとっては、働けなくなるということは、餓死に迫られることではないか。それなのに、残念な結果だが今の世の中では、からだをこわしたら一番こまる人たちが、一番からだをこわしやすい境遇に生きているんだ。粗末な食物、不衛生な住居、それに毎日の仕事だって、翌日まで疲れを残さないようになどと、ぜいたくなことは言っていられない。毎日、毎日、追われるように働きつづけて生きてゆくのだ」(前掲書)

「労働のあり方」は、「社会のあり方」と結びついている

- * いまの社会は？・・・21世紀の高度に発達した日本の資本主義社会
- * ヨーロッパに比べると資本を規制するルールが弱い日本の社会
- * その矛盾や問題が、働き方にも反映している

二。労働との深い関わり - 人間の「手」について



1. 人間の手はどんな働きをするか

こんなにイロイロできる

- * 書く、打つ、つかむ、なげる、ひっぱる、むしる、はじく、つまむ、おす、むすぶ、ふれる、なでる、抱く、つつむ、かきむしる、ひく、にぎる、さす、すくう・・・。

情報の伝達、道具の使用、他者との媒介

- * 手は「熱い」「硬い」「痛い」「形」など、たくさんの情報を脳へ伝える
- * 「道具」を使って対象に働きかける
- * 相手に物を渡したり、相手から受けとったりする、つまり「他者との媒介」にも。

手にまつわる言葉—日本語は「手」をたくさん使っている

- * 運転手、選手、助手、歌手、騎手、働き手、聞き手、やり手、手先、名手、相手、担い手、受け手、なり手...。「手」という言葉がそのまま人間をあらわすものとなっている。
- * 「手をぬく」「手伝い」「手をやく」「手がでる」「手ざわり」「手ほどき」「手さぐり」「上手・下手」「手堅い」「決め手」「手本にする」「手柄」「手にとるようにわかる」...

2. 人間の発達と手

人間の赤ちゃんが得意な「あおむけ」「おすわり」

手遊び、お絵かき、自然とのふれあい

多様な道具の使用

手を自分の思いどおりに動かすー労働への道

* 「この子は、この手をつかって、どんな人になるのかな…」

* 手はその人をあらわす

『てとてとてとて』(浜田桂子さく、福音館書店)

* ささまざまな役割や、喜怒哀楽を表現する「手」

『てをみてごらん』(中村牧江さく・林健造え、PHP)

3. 人間らしさと「手」

手は、心とつながれている - 「手」をどう使うかは、その人しだい

* 『わたしの手はおだやかです』

(アマダ・ハーン文、マリナ・サゴナ絵、谷川俊太郎訳、にいろぶっくす)

手仕事の魅力とあたたかみ

「そもそも手が機械と異なる点は、それがいつも直接に心と繋がれていること
あります。機械には心がありません。これが手仕事に不思議な働きを起こさせる
所以(ゆえん)だと思います。手はただ動くのではなく、いつも奥に心が控えて
いて、これがものを創らせたり、働きに喜びを与えたり、また道徳を守らせたり
するのであります」(『手仕事の日本』柳宗悦、岩波文庫、1985年)

手はあたたかい - 手をつなぐのは人間だけ

* 触れることによる肉体的・心理的効果

* いま、ここに「いる」「ある」と実感的に感じる

『癒しの手』は、相手の手をじっと握ったり、抱きしめたりする。不安な人を安
心させ、落ち込んでいる人を元気づけ、悩める人に共感する。薬のように特異的
に作用するのではなく、言葉のようにストレートに作用するわけでもなく、じわ
じわと体に染み込んでいくような
効き方だ。だから『癒しの手』に
触れられた人は、その手の温もり
が『身に染みる』のである」
(山口創『子どもの「脳」は肌
にある』光文社新書)

手をつなぐと、
エネルギーが湧いてくる

* 人間だけが手をつなぐことが
できるんです…！

* 手をつかえる人間って、
すてきですね

一人の手 (訳詞：本田路津子 / 作曲：ビートシーガー)

ひとりの小さな手 何もできないけど
それでも みんなの手と手をあわせれば
何かできる 何かできる

ひとりの小さな目 何も見えないけど
それでも みんなの瞳でみつめれば
何か見える 何か見える

ひとりの小さな声 何も言えないけど
それでも みんなの声が集まれば
何か言える 何か言える

ひとりで歩く道 遠くてつらいけど
それでも みんなのあしぶみ響かせば
楽しくなる 長い道も

ひとりの人間は とても弱いけれど
それでも みんながみんなが集まれば
強くなれる 強くなれる

それでも みんながみんなが集まれば
強くなれる 強くなれる

「ひとりには「何もできない」
「何にも言えない」はちよつと違つと思いま
すが、なかなかステキな歌詞です(長久評)